

令和5年度 花園第二こども園 自己評価分析と今後の課題

園内評価より	
I 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度とほぼ同様で、「よくできている」「まあまあできている」がほとんどを占める。 ・課題だった園長・主幹との話し合いについては大幅改善。 ・お互いの保育を見せ合うことに「あまりできていない」と回答した職員は昨年度より激減したが、まだ2割程度いるのでフォローが必要。
II 保育の在り方、幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの関わりは全体的に評価が高い。 ・他のクラスとの交流が少ないと感じている職員が多いので、異年齢交流について見直す。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの職員が、保育者としてのマナーや義務の理解、組織の一員としての自覚は有と評価。 ・1名ほど「あまりできていない」と回答している職員のフォローが必要。
IV 保護者への対応・守秘義務	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね保護者への対応守秘義務についての評価は高い ・「自園の苦情解決システムについて保護者に説明できる」が4分の1以上「あまりできていない」と評価。職員会議等で再度周知し、改善を図る。
V 地域の自然や社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との挨拶などは「できている」と評価。 ・小学校との連携について評価が昨年度より、「できていない」という評価が続く。コロナが5類に移行したとはいえ、未だ地域の福祉施設との交流事業が軒並み中止となっているため、高齢者との交流についての評価が低くなっている事と、同様の理由かと考えられる。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・概ねできているという評価が多い。 ・「園内の環境に関する専門性の向上」の評価が依然低く、この件についての継続的な学習の場の提供が必要。 ・自らを高めるための学習についても評価が低下。一通り、資格取得が終了したことに起因する可能性が考えられる。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての項目において「できている」という評価が多くみられる。

利用者評価より	
★家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「意見・苦情が言いづらかった」の回答が2割弱。昨年度1割弱だったので、増加。対応について職員全員で話し合う機会を持つ。 ・子育ての悩みについても保育者に相談できると回答した家庭が9割以上。保育者の自己評価とも一致する。
★カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・園の基本方針や保育方針に関して、「知っている」「少し知っている」との回答がほぼ全員。また、わが子が充実した園生活を過ごしていると感じている家庭も9割程度。 ・園が子どもの人権を守っており大切にしているという評価は昨年度より多く、9割を超え、園内の評価とも一致する。
★環境	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の清掃環境、雰囲気に関しては高評価であるが、「どちらともいえない」という回答が昨年比べて減少。園内に入れるようになったことが影響しているのかもしれない。 ・保育者のコミュニケーションや言葉遣い、あいさつについても概ね評価が高い。 ・保育者側が自己満足に終わることなく、アンケートの自由回答を参考に、利用者との関わりをもう一度園内で見直す必要がある。